



CONTENTS

- 青春を育んだキャンパスと学校のあゆみ 2
- 早苗会 やってよかった総会と交流会 ... 3
- 早苗会入会に寄せて 3
- 「母校守女」にありがとう .. 4~7
- 輝いています。卒業生は今 8
- 早苗会 2006年度 会計報告及び事業報告 8

青春を育んだキャンパスと学校のあゆみ

立命館守山高等学校 教頭 美濃部尚文

創立は昭和6年、裁縫教室から

守山市立守山女子高等学校の歴史を振り返れば、昭和6年(1931)4月、マルサ呉服店主の南井龍太郎氏が子女の教育の必要性を痛感し、自宅店舗を改造して裁縫教室を開いたことに始まります。場所は現在の守山駅前銀座通りの西口付近でした。翌年には「湖南裁縫女学校」と改称し、地域の教育に大きな役割を果たしました。校地内には遠隔地の生徒のため寮が設けられ、生徒が増えるに従い、職員・生徒が竹藪を開墾するなどして校舎を増築していきました。

高等学校として発展

戦争をはさんで「守山工芸学校」「守山高等裁縫女学校」と名称を変えていき、昭和26年(1951)に当時の守山町へ移管されました。そして昭和33年(1958)年9月には、小学校統合により空き地となった旧勝部小学校の校舎へ移転しました。新しい学びの地となった勝部は「比良比叡すがたうつして雲白く空をゆきかい」と、昭和34年(1959)4月1日に開校した守山町立守山女子



高等学校の校歌にうたわれたように湖国の風光豊なところで、まさに「守山のちえの林」となる場所でした。明治末期に小学校として建築された古い校舎でしたが、希望を胸にした若人が守山をはじめ県内各地から続々と入学し、新たな理想に燃える学びの園となりました。

この生徒の熱い向学心に答えるべく、名実ともに高等学校にふさわしい新校舎を求める声が高まり、昭和39年(1964)には地元有力者を中心に校舎改築促進後援会が設立されました。さらに昭和42年(1967)からはPTA、後援会、同窓会が校舎改築協力定期預金を実施するなど強い愛校心で一丸となった取り組みが実り、昭和43年(1968)6月、宿願の新校舎が竣工しました。この校舎が勝部の地を離れる平成19年(2007)3月まで使用された本館です。



時代とともに歩む

昭和45年(1970)7月1日市制施行に伴い守山市立守山女子高等学校となった後は、体育館、特別教室、新館、別館の校舎が建築され、第二グラウンド、新グラウンドが造成されるなど整備が進みました。教育内容も時

代のニーズに応えるべく改編され、平成11年度(1999)からは商業学科情報ビジネス科(2学級)、家庭学科生活総合科(2学級)、外国語学科英語科(1学級)となり、情報化、国際化、少子高齢化が進行する実社会で活躍できる人材育成に力が注がれました。このように充実発展してきた学校でしたが、設置者移管により平成18年(2006)4月1日から立命館守山高等学校となり、翌平成19年(2007)年4月には守山市三宅町に整備された新しいキャンパスに移転しました。

延べ1万名を超える生徒が青春の日々を過ごし、多くの思い出が詰まった勝部の旧校地は守山市により今後整備が進められ、旧別館校舎を改修し会議室等を増築したうえで、教育研究や住民の学習活動の場となる「生涯学習・教育支援センター(仮称)」として活用される予定です。さらに守山女子高等学校の名を末永くとどめ、卒業生や市民の憩の場となるように記念公園の設置も計画されています。

歴史を伝えるメモリアルルーム

新たな学びの場となった三宅キャンパスでは、守山女子高等学校で築き上げられた伝統と教育文化を礎にこれからも多くの生徒が勉学とスポーツ



に励み、立命館守山高等学校として更なる年輪を重ねていくこととなります。新校舎内には守山女子高等学校の歴史を伝えるメモリアルルームが設置され、沿革や校旗、校章などの各種資料、各専門学科での学習とその成果、部活動の記録等が展示されています。さらに正門のところには守山女子高等学校の玄関前であった「友情の庭」が移設され、登下校する生徒達のオアシスとして親しまれています。このように守山女子高等学校の歴史を受け継ぎさらに発展する新キャンパスを同窓生の皆様にもぜひご覧いただきたく、近くにお越しの際にはどうぞ学校にお立ち寄りください。

最後になりましたが、同窓生の皆様から学校にお寄せ



いただいたいておりますエールに深く感謝申し上げますとともに、これからも生徒の学びを暖かく見守りくださいますようお願い申し上げます。

ご挨拶 早苗会 会長 前田 啓好

新しいスタートから2年、手探り状態の早苗会も、立命館校友会の方々や立命館守山高校の先生方のやさしさ、卒業生の方々や在校生の輝かしい活躍の数々の励ましに支えられ、早苗会幹事一同、精一杯活動させて頂いております。

さて、今年度は懐かしい旧校舎が取り壊され、寂しい思いの中ではありましたが、早苗会の事業にふさわしい交流会（5/26総会を兼ねる）を開催することができました。教育長始め、恩師、諸先生のご臨席を賜り、卒業生総勢280名もの方々と交流を持てました事を感謝いたしております。また、行届かないことばかりではありましたが、皆様方の懐かしさを含んだ良い表情に出会えました事、大先輩から「この様な場を作って

くださり有難うございます。」とお言葉を頂戴しました事に、交流会を開催する事が出来て本当に良かった、これからも早苗会会員の連携、交流を深め合って行かなければと、考えを新たにしました次第です。

秋頃には旧校舎の跡地に集い、憩える公園が完成予定です。完成後には交流会の開催を予定していますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。今後とも早苗会へのご支援、ご協力、よろしくお願い致します。



総会で挨拶に立つ前田会長



新キャンパスの中庭に集い記念撮影（2007年5月26日撮影）

早苗会入会に寄せて

平成19年度 卒業生(学年幹事)生徒会長 上山 晴香

卒業するにあたって私たち175名は早苗会に入会させていただきます。旧守山女子高等学校に入学した生徒としては最終学年の入会となりました。



2006年度卒業式、校庭で。

56年の伝統と歴史を持った守山女子高校に入学した生徒として、最後となるととても寂しく思います。私たちは56年の締めくくりをした学年であり、新キャンパスで立命館守山の出発を担った学年でもありました。

新立命館守山のご発展を願い、守山女子高校の歴史と伝統が引き継がれて行くことを祈っています。

今後とも私たち卒業生をよろしくお願いします。



早苗会入会式(2007年2月28日撮影)

「母校守女」にありがとう

守山市立守山女子高等学校の時から今も教鞭をとられている先生方から熱いメッセージをいただきました。
(掲載は50音順。紙面の都合で100字程度でお願いしました。)

今日は明日の糧ある——有友義明

一番印象に残っていることは、進学補習やクラブ活動など目標を達成するために努力を惜しまない生徒と出会ったことです。冬の朝7時からの補習に1時間半もかけてくる生徒もいたことを思い出します。過去の努力は、壁を乗り越える力となるはずです。

「これからの人生、プラス思考で」——池上 裕

移管という状況の中で、この「卒業」を迎える君達は、本当によく頑張った。卒業おめでとう！これからの人生、何が起こるかわからない。どんな状況になっても、プラス思考で前進すれば、必ず未来は拓ける。自分を信じて前進あるのみ！

私の思い出——市木政治

だいぶ昔になってしまいましたが、私立の男子校から守山女子高校に転勤したときに、生徒が全員女の子なので、当初は戸惑いを感じたのを覚えています。数多の先生方や生徒たちから、さまざまなことを教わりました。

ありがとう——今村由紀子

笑い声が絶えず、笑顔に包まれた時間を過ごせたことに。たくさんの人との出会いに。女子高校に入学してきて最後の卒業生となる貴女達の担任を任せてもらえたことに。そして同窓生・先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

勝部物語——上田 真

守女に赴任して、はや10年が経ちました。思い出すのは、小さなボケにも一斉に突っ込んでくる明朗活発な生徒たち、また一筋縄ではいかない個性豊かな先生方です。そんな人たちと過ごしたこの10年を僕の宝物にしていきます。

ありがとう——宇田まり

母校を卒業して〇〇年・・・再び商業のお手伝いとして学校に戻って早5年。当時の恩師の先生方と一緒に仕事ができ、とても幸せな5年間でした。生徒として指導者側として、すばらしい経験をさせて頂いた守山女子高校にありがとう！



「守女」は、私の「人生」——榎本義文

昭和46年4月、大学卒業間もない若僧が見も知らぬ国鉄守山駅に降り立ちました。これが私の教員生活のスタートです。勝部神社の横を通りながら、「1年勤めたら大阪に帰ろう」と思ったこともありましたが、でも、生徒たちの純朴さ、優しさ、ひたむきさ、思いやりなどにひかれ、すっかり守女が好きになり、守女で骨を埋めようと思うようになりました。し



かし、一痛恨の極み一守女はもうありません。今、最後の守女生をおくり出し、教員生活にピリオドを打ちます。

守女、MOJO、猛女—私の20年——落合和彦

昭和63年英語科が開設されて以来、10年連続で英語科の担任をしました。当時の生徒は非常にやんちゃでしたが、バイタリティにあふれ、勉強もよくしました。学園祭で一致団結して5年連続で総合優勝を勝ち取ることができました。生徒と過ごしたあの10年間は今となっては一番の思い出です。

ありがとう——勝間伸子

学校生活で触れた守女パワーに刺激を受け、私も教師として成長することができました。また、未経験ながら顧問となったバドミントン部。今では、バドミントンが生涯スポーツとなり、共に練習に励んだバド部の皆さんは私の宝物です。ありがとう。

冬が来れば思い出す——北脇光昭

「冬が来れば思い出す…」のは守女の廊下。入学した生徒が誰でも一度は口にしたのが「何で廊下に壁がないの?」でした。入学して慣れてしまえばもう何も言わなくなります。それでも激しい雨や強風・雪の時にはみんな不満を口にしていました。厳冬の授業は大変で、教室は暖房がしてあっても、ひとたび廊下へ出たらその温度差は15~20度くらいあり、高血圧の私には「心臓マヒ」という言葉が頭をよぎったものでした。



Full of ...——木塚正子

OLから転職して守山女子高校に赴任して早23年、人生の苦難・悲哀・快樂・幸福全てを堪能しながら商業準備室で過ごした23年間は忘れられない思い出でいっぱいです。そして守女との別れを迎え、今は寂寥感でいっぱいです。

教鞭をとったあの教室が今も目に鮮やかに

守山女子高校の思い出——倉 公一

守山女子高校に赴任し初めて教壇に立った時、元気一杯に挨拶してくれたことを思い出します。私が生徒会を担当していた時には、その溢れんばかりのエネルギーで行事を盛り上げてくれました。とにかく快活で本気で何事にも取り組む姿が印象的でした。

卒業生と共に過ごした時間——小杉知佳

生徒の皆さんの芯の強さが印象的です。ものの見方と筋の通し方は時々はとさせられるくらい格好良かった。女ばかりのお気楽な雰囲気での授業も居心地の良いものでした。これからの3年生が力強く自分の夢を生きることを応援しています！

学校の思いで——史 云香

短い期間ですが、私にとって貴重な体験でした。

すばらしい先生と生徒たちと出会い、生涯の良い思い出になると思います。

感謝の気持ちを込めて、ご親切にくださった皆さんのこれからのしあわせをお祈りします。

谢谢,再见!



第一印象——重田涼子

この学校に初めて来たのは、三年生が一年生だった頃の文化祭の日。廊下に窓が無い校舎を見て吃驚したのを今でも覚えています。毎日が新鮮で、新しい発見が多い日々でした。今でも懐かしく、楽しい思い出の日々です。

母校は永遠に……——武田憲樹

旧の守山女子高校の先生方をはじめ、卒業生の皆さんには大変お世話になりました。心より厚くお礼申し上げます。長年お世話になった女子校は私にとっても、第二の母校でもありました。様々な思い出が詰まった跡地は、今では更地になり寂しい気持ちで一杯ですが、心の中に大切に閉まっておきたいと思います。皆さんもご承知の通り、新天地は開放感に溢れ素晴らしい施設・設備の中でより一層学習意欲も高まる中、本年度卒業する皆さんも学校生活を楽しく有意義に過ごしてくれたことと思います。環境や教育課程も一変し、新たな歴史を刻み始めましたが、愛校心はいつまでも変わらないでしょう。2007年度の卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。何時でも結構ですので時間があれば是非母校に遊びに来て下さい。

守山女子高校の思い出——竹村直也

私が常勤講師として赴任してから、早や八年が経とうとしています。その間、先輩の先生方が私に根気強く指導して下さったこと、また素直な生徒に恵まれたこと、なんと幸せだったかと思っています。今後の同窓会の益々のご発展を祈念しております。

ありがとう！——田中真美子

書道を通じて7年間、本当に有難うございました。【元気で素直で人懐っこい】これが私からみた守女生徒でした。大好きでした…守山女子高校。本当にありがとう!!! 皆さん、大きく、羽ばたいて下さい!!!!

自然の中での染織工芸の授業——辻 絹子

私が女子高校に来た頃は染色工芸と美術、服飾デザインを教えました。工芸家の酒井先生との染色はかまどで薪を焚いて蠟を落とし、戸外にロープを張り作品を乾かしたり生徒も教師も煙や汗にまみれながらも楽しく作品を作りました。多くのことを学び貴重な体験をさせてもらった思い出深い授業でした。



守山女子高校の思い出——中谷隆一

昭和58年4月に商業科2年目に赴任し、日本の最先端の授業、愛情のあるスパルタ授業を思い出します。当時の先生方の情熱は今も卒業生にいきていると思います。苦しいこともありましたが、守女のことを語ると何日間もかかるので…

すばらしい学び舎に感謝して——中西順子



思い起こせば昭和48年、大学新卒のほやほやで、ただ熱い意気込みと若さだけで赴任して来ました。白亜の校舎のコントラストの美しさが今も脳裏に焼きついています。校訓「愛敬・清純・勤勉」を基盤に有能な人材を社会に送り出し地域社会からは大きな評価を得ていた本校。今後も歴史と伝統を心の糧として大切に、温かく見守って行きたいと思っています。

勝部の学び舎は一生の宝

走馬灯のように——西川好美

目を閉じれば、廊下にずらりと並んだミシン、冬は冷たい昼で和裁の授業など思い出いっぱいです。木造校舎から新校舎へ移転、今や目を開ければ見つかりません。皆さんと共に学び歩いて来たこと、そして私自身の母校守女でもあります。ずっと誇りとして心深く思い続けたいと思います。



3年間——西山英樹

ちょうど3年前、皆さんと同じように守山女子高校にやってきました。たったの3年間でした。でも今、皆さんに出会い、そして一緒に卒業できることに感謝をしています。3年間ありがとう。

守山女子高等学校の思い出——野口勝利

検定試験、課題研究等県下の学校に負けないよう取り組んだことが今は懐かしい。森羅万象有る物は無くなり、無き物は創られる。今実感している。

大きな空が残っていた——日口由美子

久しぶりに勝部町を車で通り過ぎた。あっ、あっ、あー。ポロくて寒そうで狭くて愛おしかった校舎が跡形もなくなっていた。そこにあったのはぽっかりとあいた青い空だった。その空をめざす緑の草だった。あの校舎の中で泣いたり笑ったりしたことは、すっかりしまっておこうと胸に手を当てた。(ちょっと生徒ふう)



フリージアの風——福角 操

「フリージアの風」という名前ピンとくる人がいらっしゃるでしょうか？平成元年から発行している国語通信です。生徒の皆さんから『フリージアの風』を読むのがとっても楽しかった。この通信は題名も変えずにこれからも出し続けて下さい。」と言ってもらい、書き続ける約束をしました。その時に生徒のAさんに書いてもらった題名のイラストを19年たった今も使い、あの時の約束を守り続けています。「フリージアの風」の読者だった皆さん、お元気ですか？

一緒に取り組んだ服飾デザイン——藤井彰子

出会いがあって、一緒にものを創る体験ができたこと、イベントの感動は、心に残っています。被服科・生活総合科の創造力とパワーは永遠です。巣立っていったひとりひとりがどこかで幸せであるように、これからもずっと願っています。



ありがとうございました——前田祐子

雪が吹き付ける寒い廊下でしたね……。でも、先生方や生徒のみなさん、「人」があたたかい学校でした。守女は自分の母校のように大好きです。いつまでも忘れません。ありがとうございました。

校訓「愛敬」「清純」「勤勉」——美濃部尚文

中江藤樹の教えからいただいた「愛敬」は学校生活に礼儀と節度を与え、「清純」はきりりと制服に身を包んだ生徒の姿であり、「勤勉」はまさに人間形成の本質を指しています。この優れた理念は教育の原点として、私の心にしっかりと刻まれています。



守女で過ごした日々——宮西治子

守山女子高校は今年度で終わってしまいますが、皆さんの心の中にそして、わたしの心の中にいつまでも生き続けていきます。いつもみんなから若さと元気をいっぱいもらい、それを力に今日までがんばってきました。たくさんの笑顔と感動をありがとうございました。



Where there is a will, there is a way.

※上記英文は、2008年2月28日(木)に早苗会入会式で前田啓好早苗会会長から卒業生に手渡される記念品、マグカップの側面に、贈る言葉として書かれた格言です。



守山女子高校と歩んだ18年 ———— 森 幸久

守山女子高校には講師時代から数えると18年間お世話になりました。その間、多くの生徒の皆さんや先生方に支えられて今まで何とか勤めさせていただくことができました。本年度、卒業される3年生の諸君は守山女子高校最後の入学生です。その皆さんと一緒に私もこの学び舎から卒業できることに感謝の気持ちで一杯です。本当に今までありがとうございました。

素敵な出会いをありがとう ———— 山田江美

守山女子高校は教員としてスタートを切った思いでの場所です。生徒たちと共に学び、温かい先生方に支えられ成長して参りました。守女で過ごした日々は一生の財産になると思います。素晴らしい出会いをくれた学校に心より感謝しています。

To your bright Future ———— ロバート ハリス

Congratulations to you all. Whatever you do, do your best. Follow your dream, never give up.

Good luck.

守女から立守 ———— 横江川 貢

守女へ赴任して12年、多くの卒業生と共に過ごした勝部校舎が少しずつ壊されていく様子は今でも忘れられません。三宅の校舎にかわりましたが多くの伝統が受け継がれ、また新しいかたちに変えながら頑張ってくれると思います。

大切な宝物 ———— 横山伴子

11年間を主に被服科、生活総合科の生徒達と共に過ごしてきました。楽しいこともいやなことも生徒と共有して過ごせた日々を懐かしく思います。日差しがいっぱい入る4階の被服室は今でもはっきりと目に浮かびます。守女での毎日はいつまでも大切な私の宝物です。



守山女子高校生徒会と作曲家辰巳直弘氏とのコラボレーションで実現した「君たちへ」と「ありがとう」の楽曲です。平成17年11月最後のクリエイティブ守女展で感動の渦の中熱唱しました。



君たちへ

詩：守山女子高校 曲：辰巳直弘

春 制服を初々しく着る生徒もいれば襟をたてて今日も叱られる生徒もいる
桜散る頃には 新しい環境にも慣れた
夏 守女ダンスのテストと中間考査が大きな口をあけて待ちかまえてる
日差しが強くなる頃には 夏季大会が始まってた
☆想いがなくなるその前に

「ありがとう」の気持ちを伝えよう

教室が暖かくなったら みんなのそばにも春がくる

秋 感動と涙に彩られたあの学園祭が

期末考査の試練とともにやってきた

冬 進路や進級で悩むみんなを元気づけたのは

ほら あの先生ややさしい友達だったね

今ここに立つ みんなの胸の奥の

想い出はあまりにもせつなく でも君たちは輝いている

☆くりかえし(2回)

ありがとう

詩：守山女子高校 曲：辰巳直弘

ふと振り返れば 鮮やかに蘇る記憶

初めて着た制服 新しい靴 胸の鼓動

キュッとネクタイ結んで スカートを風になびかせて

今日も私は駆け出す チャイムに合わせて

白い校舎と青い手すり 教室に響く笑い声

☆ありがとう ありがとう ここで出会ったみんなに

ありがとう ありがとう 私たちの夢 守山女子高校

みんな個性光らせ これからは自分の道を歩く

辛いことがあっても大丈夫 一人じゃないから

いつも傍にいてくれた 友達とちょっと変わった先生

みんなみんな大好きだよ ずっと忘れないよ

何も恐れることはない 涙はいつか笑顔に変わるから

☆くりかえし(2回)

私たちの宝物 いつまでも

輝いています。卒業生は今

技能グランプリ日本一! 和裁士日本一! に輝く



平成9年度卒業 寺田真紀

平成19年3月に千葉県幕張メッセにて開催された第24回技能グランプリの和裁部門で見事、内閣総理大臣賞を受賞され、日本一に輝きました。1月25日、小雪舞う中、寺田さんを訪ねました。

技能グランプリとは…中央職業能力開発協会と社団法人全国技能士会連合会が共催するもので、30種目において一級技能検定合格した熟練技能者が年齢に関係なく日本一の技能を競い合う全国規模の技能競技大会です。



プロフィール

平成10年 市立守山女子高等学校(被服科)卒業
 平成10年 和装総合加工(株)たけなか 入社
 平成13年 国家技能検定「和裁」職種2級合格
 平成13年 東京商工会議所主催
 第44回和裁検定1級合格
 平成14年 第40回技能五輪大会銀賞
 平成16年 国家技能検定「和裁」職種1級合格
 平成18年 第45回全国和裁コンクール銀賞
 平成19年 第24回技能グランプリ「和裁」職種金賞
 内閣総理大臣賞受賞

- Q. 今日まで取り組んでこられた事をお聞かせください。
 A. 目標は技術の向上です。楽しいことはさまざまなことに挑戦してよい結果が出たらうれしいですね。
 Q. 仕事はきついですか？
 A. 9割しんどくて、楽しいのはあとの1割ですね。
 Q. 技術を向上させるコツはなんですか？
 A. ただ縫いこむこと、そして反復練習をすることです。
 Q. 技術を覚えるまでの苦労はありましたか？
 A. 苦労ではなく努力することが大切！
 しんどいけど耐える力が大事！
 耐える力は自分を信じること！
 Q. 技能グランプリの教材を教えてください。
 A. 訪問着です。9時間の制限時間内に反物から訪問着をぬいあげました。
 Q. 今後の抱負をお聞かせください。
 A. 伝統産業の後継者として、自分の力を活かしていきたいです。

耐える力はどこからくるのかとお尋ねしたとき「自分を信じてことです！」と、さりげなくさわやかな笑顔で、高校生だったときのことを振り返りながら楽しそうに答えて下さいました。力強く、謙虚でとても素敵な女性でした。

(取材/ 澁谷成子)

2006(平成18)年度 立命館山高等学校早苗会会計報告

(2006年4月1日～2007年3月31日)

一般会計

収入の部 (単位円)		
項目	収入額	備考
入会金	955,000	5,000円(191人)
雑収入	309,612	メモリアル実行委員会会計より
	758	利息
	9,000	全国校友会チケット割引金
繰越金	1,466,264	前年度繰越金
合計	2,740,634	
支出の部 (単位円)		
項目	支出額	備考
行事費	10,000	エキシビジョンスタンド花
記念品代	86,400	入会記念品(マグカップ)
助成金	20,000	国際交流助成金
	25,000	クラス会助成金(5クラス)
通信費	381,494	早苗会封筒・ハガキタックシート等
会議費	13,086	幹事会等会議費
交際費	47,520	全国校友会大会チケット代・祝い金・交通費等
予備費	0	
合計	583,500	
収入額2,740,634円-支出額583,500円=差引残額2,157,134円は次年度に繰り越します。		

特別会計

項目	収入額	備考
前年度金	3,665,838	定期預金
雑収入	1,294	定期預金利息
合計	3,667,132	
合計金額3,667,132円を次年度に繰り越します。		

2006(平成18)年度 立命館山高等学校早苗会事業報告

(2006年4月1日～2007年3月31日)

月	日	曜日	校内関係	校外関係
4	1	土	メモリアルイベント(びわ湖ホールにて)	
	9	日	入学式	
	21	金	立命館山高等学校開校式典	
6	23	金	移管メモリアル事業実行委員会	
	14	金	幹事会	
7	15	土		立命館清和会総会 第26回滋賀県校友会総会
	21	金		4校連絡協議会
	25	火		立命館付属校同窓会協議会
8	15	火		立命館付属校同窓会協議会
	1	金		第1回立命館附属高校同窓会協議会 慶祥高校オールリッツ
9	2	土		
	22	金		朱雀キャンパス開設・式典・祝賀会
10	10	火	立命館山キャンパス整備事業に伴う建設工事(上棟式)	
	14	土	常任幹事会(事業・広報)	
	31	火	広報部委員会第1回	
11	4	土	事業部委員会第1回	全国校友会大会
	11	土	事業部委員会第2回	
12	5	火	早苗会ホームページ立ち上げ	
	1	8	月	祝賀会(川口総長就任)
2	23	火	広報部委員会第2回	
	10	土	事業部 メモリアルルーム担当	
	19	月	広報部委員会第3回	
	27	火	同窓会早苗会入会式	
3	1	木	立命館山高等学校 第1回卒業証書授与式 「Ritsびわ湖」広報誌発行	川本理事長励ます会



(早苗会広報部一回)

同窓生の輪を広げ、絆を深める基盤づくりをしようという目的で始まった「Ritsびわ湖」の第2号を無事発行することが出来ました。

今回は市立守山女子高等学校から今も教鞭をとられている先生方から卒業生早苗会への熱いメッセージを戴くことが出来ました。先生や友達との思い出いっぱい、の校舎はなくなりましたが、その歩みと教えや友情は、卒業生一人ひとりの胸の中にしっかり刻み込まれたことと思います。これからも自分を信じ、誇りをもって羽ばたいてください。

同窓生・早苗会の皆様は、思いが詰まったメモリアルルームをご覧いただき、そこで憩い、思い出を語り合えたら、と思っています。また、早苗会への感想もお寄せいただければ幸いです。

後編
集記

